

OISCA

— 人と育む、地球といきる —



〔TOPIC〕

巨大煙突の下に暮らす人々

～バングラデシュ・マングローブプロジェクトの現場から～

NOVEMBER | 11
2025

今月の OB & OG

日本で学んだオイスカ研修生の今を紹介します。

日本での研修を
支えてくれた皆さん、
日本のお父さん、お母さん
お元気ですか



FILE
No. 07

サラントンガラグ・エンフバット (36)

愛称：バット

- 出身国 モンゴル
- 研修歴 西日本研修センター／環境保全型農業指導者
育成研修 (2017年4月～18年3月)
- 現在の職業 農業 (野菜、育苗)、店舗経営



日本のさまざまな場所に行けたことが、一番楽しい思い出です

家族で農業や環境活動を続けています！

訪日研修生時代に、いろいろな野菜や果物の栽培方法を土づくりから教わりました。育てた野菜や果物を市場に出すときのポイントや、パッキングや包装の工夫なども習得することができ、本当に貴重な経験でした。これらの知識は、今の私の仕事の大きな支えになっています。

さらに、農業だけでなく、日本語や日本という国についてもたくさん学びました。私は、それまで日本語が全く分かりませんでした。世界各国から集まった研修生と友だちになり、日本語でコミュニケーションを深められたことは、研修の大きなモチベーションになりました。

現在、私は妻と3人の子どもと一緒にオルホン県で暮らしています。育てた野菜を販売したり、苗を育てたり、日用品を取り扱う店を営んだりしています。また、家族でオイスカの植林活動に毎年参加しています。子どもたちは、学校でも「子供の森」計画を通じて自然に親しん

でいる様子で、とてもうれしく思っています。

モンゴル政府は、気候変動対策として「10億本の植樹」国民運動を推進しており、日本政府からも支援されています。そして私たちのオルホン県では、オイスカモンゴルが森林再生プロジェクトに取り組んでいて、私もいつも活動に参加しています。ふるさとでオイスカの活動が行われていること、そしてその取り組みに貢献できることを心からうれしく思います。



ボランティアで「子供の森」計画のサポートもしています！



創立者のことばを紐解く

日月星辰

公益財団法人オイスカ 理事長 中野悦子

本当の商いとは

「元来、地下資源といえは、農産物とは全く無関係であると考えられているが、産物が地上か地下かの違いだけであって、地球の造化力が宇宙の大生命を受けて産出する、人類への恵みであることに変わりはない。また、発掘といい採掘とはいっても、その国土の地下に造化された自然の産物であって、地上の資源が乏しい所には地下の資源を恵むなど、それを活用して人類の福祉に貢献せよ、という啓示である。」

特に、石油エネルギーを活用して以後の世界は、科学と化学の協調によりあらゆる分野に利用され、その恩恵には計り知れないものがあり、福祉の充実に貢献した成果は大きい。ところが、その成果が大きく威力もまた強大であるところから、ついに戦略物資とされて国家的な利己に利用され、資源外交の名を恣にしていることは、たとえ無理押しが一時的には通用したとしても、大自然の厳しさが許すはずはなく、その責任を問われる日が到来するであろう」

これは、半世紀以上前の創立者の言葉ですが、そのまま改善されずに現代にも当てはまる問題です。日本は資源小国とよく言いますが、その場合の資源とは地下資源が念頭にあり、地上の産物をすっかり忘れていることに気づかされます。緑豊かな日本。肥沃な土地に恵まれて農産物も豊富です。先人たちの血のにじむような努力の賜物です。

豊かになった日本は、それを忘れて目先の損得勘定で、世界中からいろいろなものを輸入しています。しかし、以前は商いとは空気がないように、余っているものを足りない所に、というのが本当の商い・交易であると考えられていました。その心を取り戻し、世界の範として、一日も早く『資源外交』なる言葉をなくしたいものです。



OISCA NOVEMBER 2025 | 11 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 TOPIC 巨大煙突の下に暮らす人々
～バングラデシュ・マングローブプロジェクトの現場から～
- 10 今月のこの人 西日本研修センター研修生 エンジェル・グローリー・パヤル
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！スヌメOISCA
- 14 INFORMATION 新着情報 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際協力NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持ち活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O	rganization	機構
I	ndustrial	産業
S	piritual	精神
C	ultural	文化
A	dvancement	促進

人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。

海外「子供の森」計画

学生インターナショナル2名が
アフリカで環境教育に挑戦

現在JICA海外協力隊の環境教育隊員として活躍しているオイスカの元学生インターナショナル2名が、それぞれの派遣先で、これまでの経験やつながりを活かしながら、「子供の森」計画（以下、CFP）を試験的に行いました。

タンザニアで活動する宮崎あかねさんは、5月30日、地元NGOの協力のもと、モロゴロ州のスコア小学校で国際生物多様性の日を記念したグリーンウェイブ植樹を実施。

子どもたちはなぜ植えるのか、どのように育てるのかを学びながら、苗木を植える楽しさや自然を守る喜びを体験しました。

一方ボツワナでは、9月24日、中屋美里さんがサウスエースト地区トロクウェンのボツアラノ小学校での植樹に先



タンザニアでは67名が参加し、アボカドやマンゴーなどの果樹や在来樹種30本を植樹した



ボツワナでは、乾燥地に育つ丈夫で実が食べられる在来樹種を植樹。苗木は別の協力隊員が配属されているボツワナ国立ツリーシードセンターから無償で提供された

立ち、CFPに参加するインドネシアの子どもたちからの環境保全の大切さや活動の楽しさを伝えるメッセージ動画を紹介。現地の子どもたちは、動画に刺激を受けた様子で植樹に取り組み、植えた木を自分たちで育てることを楽しみにしていました。中屋さんは、大学時代のインターン経験が今の活動に活きていると振り返り、「日本から遠く離れた国々の子どもたちと環境活動でつながることができてうれしい」と語っています。

両国でのCFP活動は今回が初めて。子どもたちに自然の大切さを伝え、友情と協力の輪を広げる貴重な機会となりました。

海外支部・推進協議会・オイスカ国際活動促進国会議員連盟

夏の海外現場視察ツアー
支部・組織が各国で植林、友好を深める

コロナ禍以降、中止や延期が続いていた支部・推進協議会による海外視察ツアーが、23年度から全国的に再開。今夏も活発に開催され、会員を中心とする各視察団が、6カ国の現場を訪れました。

富山県支部は、8月19～24日に「緑の植林協力隊2025」の取り組みとしてスリランカを訪問。01年より始まった協力隊派遣は今回で22回を数え、スリランカでの活動は10年ぶり2回目となりました。

現地では、オイスカスリランカ総局のAMCKB・アラハコーン事務局長の案内で、研修センターや「子供の森」計画（以下、CFP）実施校での活動視察、植林を通じて各



研修センターで記念植樹（富山県支部）



CFP実施校では熱烈的な歓迎を受けた（オイスカ国会議連）

地で友好を深めました。

また8月26～29日、衆議院議員の谷公一氏、井上信二氏、瀬戸隆一氏が、フィリピンを訪問。アブラ州では、アブラ農業研修センターの幅広い農業実習プログラムや、技能実習生として来日を目指す青年の事前研修の様子などを視察しました。次いでイロコス州では、マングローブ植林のプロジェクトサイトや、CFP参加校を訪問。子どもたちの植えたマホガニーが大きく生長し、校庭に涼しい木陰をもたらしている様子などから、

植林や環境教育の成果を確認しました。さらに、各地で州知事や副知事、町長と面会したほか、マニラでは、遠藤和也駐比日本大使訪問やオイスカフィリピン総局メンバーとの懇親会も実施。ラファエル・ロテイリヤ環境天然資源大臣を訪問した際には、オイスカ活動の継続と環境保全活動の重要性について意見交換しました。

現場視察ツアースケジュール（7～9月実施分）

行先	支部・日程
フィリピン	茨城推進協議会「柔道家派遣」(7月25日～8月11日)／オイスカ浜松国際高校(7月25日～8月2日)／関西研修センター・広島県支部「フィリピン植林フォーラム28th国際ボランティアツアー」(8月23～30日)／オイスカ国際活動促進国会議員連盟(8月26～29日)／福島推進協議会「フィリピン視察ツアー」(9月1～6日)
モンゴル	静岡県支部「モンゴルツアー2025」(7月19～26日)／熊本推進協議会「モンゴル南ゴビツアー2025」(8月28日～9月4日)
マレーシア	佐賀推進協議会「ラブグリーンの翼」(7月27日～8月2日)
インドネシア	西日本支部「ふれあいの翼」(8月19～24日)
スリランカ	富山県支部「緑の植林協力隊2025」(8月19～24日)
フィジー	山梨県支部「地球環境再生植林フォーラム2025 in フィジー」(9月17～24日)



海外 日中韓蒙ウズベキスタン5カ国が参加 沙漠化防止国際シンポジウム開催 モンゴルの訪日研修生OBの事例報告も

9月5・6日、中国・内モンゴル自治区エジン旗で、沙漠化防止と緑化促進に関する国際シンポジウムが開催され、日本、中国、韓国、モンゴル、ウズベキスタンの5カ国から専門家や関係者らが参加しました。本シンポジウムは、オイスカの現地活動拠点であるアラ善黒城生態文化保護協会が主催するもので、JICA中国事務所の後援により実現しました。またオイスカも共催者として、エジン旗林業・草原局などと企画運営に参画しました。

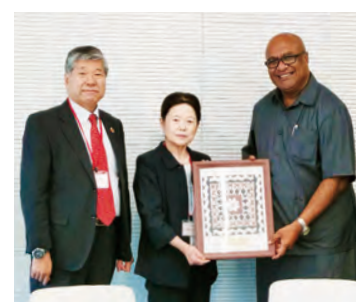


モンゴルでの取り組みを発表するザグダ氏

開会の挨拶に登壇した日中韓協力事務局の図師修司事務次長は、沙漠化対策を含む環境協力が、長年にわたり三国間パートナーシップの原動力となってきたことに触れ、グローバルな課題に対応するためには三国十の協力モデルが重要であると強調しました。各国の専門家からの学術発表のセッションでは、オイスカのウズベキスタン沙漠化防止プロジェクトを担う富樫智専門家とモンゴルから参加した訪日研修生OBのザグダ氏も活動について発表しました。オイスカは、中国・内モンゴルで約1400haの沙漠緑化を進めてきた実績があり、そのノウハウを活かしてモンゴル南部の乾燥地域や沙漠で緑化を実施するほか、青年たちを対象にした技術研修にも取り組んでいます。また、現在ウズベキスタンのアラル海で進めている沙漠化防止プロジェクトも同様に、内モンゴルで培った知識や技術を活かした活動となっています。中国、モンゴル、ウズベキスタンを行き来しながら活動する富樫専門家は「国際的なネットワーク強化と学びの共有の場となった」と話し、今後の各国の連携に期待を寄せています。

国内 フィジーとの連携促進 フィジーの副首相とオイスカ総裁が面談 青年スポーツ大臣が西日本研修センターを訪問

9月22日、フィジーから来日中のマノア・カミカミザ副首相とオイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁、永石安明副総裁が面会し、同国におけるオイスカの取り組みについて意見交換しました。今回の面会は、副首相に同行したフィジー開発銀行の会長を務める訪日研修生OBのダメンド・ガウンダー氏の働きかけで実現したものです。



カミカミザ副首相(右)よりフィジーのお土産が贈られた

の連携を深めたいとの意向が示され、今後も具体的な議論を継続していく予定です。

国内 海岸林再生プロジェクト 第48回全国育樹祭みやぎ2025で 宮城県緑化等功労者表彰を受ける

10月5日、宮城県で第48回全国育樹祭の式典行事が開催。オイスカは未来を育む「海岸林づくり」部門の宮城県緑化等功労者に選ばれ、知事から感謝状の贈呈を受けました。この表彰は、東日本震災復興支援として、2011年から名取市海岸林の再生に取り組んできた成果が評価されたもので、育苗からともに活動してきた「名取市海岸林再生の会」との同時受賞となりました。



秋篠宮皇嗣同妃両殿下との面会について記者団の取材に応えるオイスカ名取事務所の佐々木廣一統括(左端)と、啓発普及部の浅野奈々穂(左から2番目)

式典後には、育樹祭に出席された秋篠宮皇嗣同妃両殿下に、海岸防災林の技術や現場でのボランティアの活躍などについてお話しする機会をいただきました。

また4日、併催行事として開催された育林交流集会では、オイスカ啓発普及部GSM担当の吉田俊通が登壇。強靱な海岸防災林を目指して進めてきたこれまでのあゆみを伝え、とともに、現在全国的な課題となっているマツ枯れが、活動地付近でも発生し、今後本格的な対応が求められると強調しました。

長期政権の 崩壊と混乱

2024年8月5日の午前中、Bangladesh駐在スタッフから届いたメールには次のような報告がありました。

「反差別学生運動が呼びかけたダッカでの行進による混乱で100名以上が死亡。政府は昨日、午後6時から首都と国内の一部地域に無期限の夜間外出禁止令を発令。オイスカ研修センター近くでも同様の衝突があり、縫製工場への放火やセンター前の道路および近隣のOB所有の建物などが壊されたとの報告がありました」(当時、帰国していた駐在スタッフは、現地からメールで連絡を受けた)。

同日夜の続報には「OBの話によると、30分ほど前にシエイク・ハシナ首相は軍隊のヘリで国外に逃げたとのことです」とあり、その後、日本でもハシナ首相の退陣、暫定政権発足などが報道されました。

さらに2日後のメールでは、「無政府状態となり、押さえつけられていた不満が各所で噴出。この機に乗じて問題を

TOPIC

巨大煙突の下に暮らす人々

〜Bangladesh・マングローブプロジェクトの現場から〜

最貧国の一つに数えられるBangladeshでは、洪水やサイクロンなどの自然災害にたびたび見舞われ、政治的混乱も続く中、多くの人々が厳しい生活を強いられています。

オイスカがマングローブ植林プロジェクトを進める地域では、国の発展の礎となる港湾や発電所などのインフラ整備が急速に進む様子が見られます。マングローブ植林プロジェクトの今と、海岸に暮らす人々の様子をお伝えします。

(海外事業部 林久美子)



🌳 オイスカのマングローブ植林プロジェクト

漁を終え、村に戻る男たち。村の集落は、防風林となっているモクマオウの森の向こうにあり、その森の先にマタバリ超々臨界圧火力発電所の煙突が見えてくる



上／駅の自動改札は日本のそれとほぼ同じ。駅には日本の支援であることを示したプレートが掲げられている

右／未舗装である以外にも、雨季は街なかの道路が常に冠水してしまうといった課題もある



起こす輩が出ております」との前置きの後、センターの壁を壊して侵入した者がいること、また、暴動で警官・警察署も襲われている状況で、届け出をしても何かしらの対応も望めないとの報告がなされました。

約15年にわたる長期政権が崩れたことによる政治的な混乱が続く、オイスカの活動もその影響を受けています。農場運営は継続しているものの、研修事業は休止しています。

発展するダッカ

オイスカの研修センターは、バングラデシュの玄関口、ハズラット・シャージャラル国際空港から北西に約25kmのダッカ郊外に位置しています。

周辺には衣料品や靴などの縫製工場が多く、そこで働く女性たちの住宅もひしめき合うように立ち並ぶエリアです。

現地を訪問したのは雨季が始まった6月下旬。未舗装の道路はぬかるんだり、水がたまっていたりしているのに、庶民の足「リキシャ」はおかまいなしに行き交い、バイクや自動車などの乗り物も泥を跳ねながら無秩序に走行。沿道には、リヤカーなどに積ん



訪日研修生OBのマニック氏がマングローブ植林プロジェクトのコーディネーターを務めている。過去の植林サイトの植林年、日本から来たボランティアグループの名前がすべて頭に入っている

だ野菜や果物を販売する人たちも多く見られ、活気が感じられます。

この郊外から中心地に向かう未舗装の道路では、現在、中国資本で高架の高速道路建設が進められているほか、日本の支援で完成したメトロがダッカ市内を走っており、物流・輸送の質の向上や渋滞緩和といった課題の解決が期待されています。

ダッカ市とその周辺を含めたダッカ都市圏は、2400万もの人口を抱えながら発展を続けていますが、他の大都市同様、労働力や食料、電力などのエネルギーは、地方から供給されているという構図が顕著となっています。

コックスバザールでの取り組み

オイスカが1992年からマングローブ植林をスタートさせた南東部に位置するコックスバザール県は、国内有数の観光地であると同時に、ロヒンギャ問題でも国際社会から注目を集めており、日本での報道でその名前を耳にしたことがある方も多いのではないだろうか。同地にはミヤ



ンマーから国境を超えて逃れてくるロヒンギャ難民を受け入れるキャンプがあり、人道支援を行う国連機関や国際NGOの事務所も多く存在します。

近年オイスカでは、同県のモヘシュカリ郡のマタバリ地区やドルガタ地区の沿岸部でマングローブ、また内陸の砂浜には海岸林樹種であるモクマオウを植えています。

マタバリ地区のシャッパラ村は海岸浸食が深刻で、21年



1／2021年に植えたモクマオウが育ち、防風林になりつつある

2／視察をすると、こうした盗伐の跡が見られる

3／泥に足を取られながらの植林



大きく育ったマングローブ林の向こうにも煙突が見える

から林業局のプロジェクトを引き継いで、モクマオウを植林。当初は林業局から苗木を購入していましたが、昨年度からは住民の雇用機会を拡大し、当事者意識を育むため、住民に育苗を任せることに。植林グループを指導するバッシャン氏は「初めての経験で手探りではあったが、いい苗を育てることができた」と話しつつも、さらにより苗を育てたいと、さまざまな質問をしてくる姿に意欲が感じられました。

また、植林地に隣接した場所に育苗場を設置したため、これまでのような運搬の労力が必要なくなったこともプラス面として報告されました。ただ、課題として住民への浸透の難しさを挙げており、ヤギや牛に与える草が取れない



植林グループのバッシャン氏。集落につながるこの道はかつて大雨が降ると冠水していたが、国連国際移住機関による支援で昨年修繕された

煙突のある風景

植林地の村々での生活は、漁に出るほかに、海に面し

季節には枝葉が切られ、家畜のエサとして持ち去られる事案も少なくないと話します。ドルガタ地区のマングローブ植林地でも、住民が漁に使う網が苗木を傷つけたり、引き抜いてしまったりする被害が多く見られるとのこと。また、モクマオウ同様に家畜のエサとして枝葉を切ったり、養殖池などの資材として幹の部分を持ち去ったりする住民も確認されており、取り締まりに苦慮している様子がうかがえます。

マタバリ周辺の村の様子



養殖用のエビの稚魚を販売



高さ275mの煙突はマタバリのランドマーク！

ゲート付近で写真撮影に興じる若者の姿もよく見られる



村に帰り着いた船が、市場に出した後の稚魚を海岸に捨て、村人たちがそれを拾いに来る。3人は表紙写真の少年たち



塩の出荷の様子



この道具を使ってカニをつかまえます！



カニのはさみと足を器用に紐で縛り、袋に入れ売り歩いていた



学校帰りの子どもたち。カバンがなく、手で教科書を持ち帰る少年の姿も

オイスカのあゆみ in バングラデシュ

1964年 東パキスタン総局発会

1962年からの調査団派遣を経て総局を立ち上げる。チッタゴンにモデル農場をつくり、日本からの指導員が稲作、野菜と果樹の栽培などを指導。

1970年 災害救援調査団を派遣、以降救援活動を行う

11月12日に20世紀最大といわれたサイクロンが発生し、チッタゴンをはじめとする各地で救援活動を行うべく、被害状況を調査。物資支援などを実施しながら長期復興支援を視野に活動を開始した。一方、日本では全国支部で街頭募金を行い、延べ3,500名で約1,544万円を集めた。



1971年 東パキスタンが「バングラデシュ」としてパキスタンから独立

1974年 農業研修生の受け入れスタート

1970年に窯業を学ぶ研修生を受け入れたものの、農業研修生の受け入れはこの年から。

1981年 ダッカに研修センター開設

11月28日、建設に協力した愛知県支部の会員ら54名をはじめ日本からも大勢が開所式に参加。政府代表、訪日研修生OBのほか地元住民らも集い、1,000名ほどの盛大な式典となった。



1984年 第9回アジア太平洋青年フォーラムを開催

日本、オーストラリア、インド、タイなどから180名の青年代表らが集まり、政府や民間セクターと連携して各国の植林活動を拡大し、若者の参加を促すための話し合いなどを行った。

1985年 女性の研修コースがスタート

イスラム教徒が多く、研修センターで男女が一緒に学ぶことが許されなかったため、男性のみの研修コースだったが、日本政府の支援を得て女性のための研修センターを建設。



1992年 「子供の森」計画開始

マングローブ植林プロジェクト開始

フィリピンで1991年から始まった「子供の森」計画が、バングラデシュでもスタート。マングローブ植林プロジェクトには多くの日本人ボランティアも足を運び、地域住民と共に植林に参加した。



た場所に養殖池や塩田をつくらせて生活の糧にするなど、海に依存しています。塩づくりは乾季にのみ行われるため、雨季の初め頃には、村に塩を買い付けに来る大型船が多く見られます。海辺を歩けば、カニをつかまえる親子、網の修繕をする人、養殖用のエビの稚魚を販売する人、漁を終えて岸に戻った船から市場まで魚を担いで歩く人など、海

と共に生きる人々の生活が垣間見えます。そんな地域に、バングラデシュ政府が進める深海港や火力発電所、工業団地建設など、物流やエネルギーを含む総合的なインフラ開発の波が押し寄せています。オイスカの植林プロジェクトのどこからでも見えるマタバリ超々臨界圧石炭火力発電所（以下、発電所）の巨大な

煙突は、その象徴といえるかもしれません。同発電所は日本からの支援で建設され、バングラデシュの深刻な電力不足を補い、経済発展を支える重要なインフラです。プロジェクト視察中には「友人が発電所の取り付け道路の建設で働いていた」といった声を聞いたほか、バッシャン氏は「近くに火力発電所もできたし、経済特区をつくる計画も

ある。若い人が働く場が増えたら近い将来、村は豊かになる」と話しており、雇用機会が少ないこの地で開発が進むことが、雇用の促進につながるの期待の高さがうかがえました。

これからの取り組み

今後、大きな変化が予想されるマタバリ周辺ですが、ただけ経済的な発展を遂げようとも、サイクロンをはじめとする自然災害に脆弱な地域であることに変わりはありません。若手コーディネーターの育成や新たな植林サイトの選定など、取り組むべき課題が山積していますが、災害に強い地域づくりに貢献していきます。今後もこの地でマングローブ植林を進めてまいります。

今月のこの人

エンジェル・グローリー・パヤル

(愛称：エンジェル／マレーシア)

西日本研修センター研修生（農業一般コース）



この夏も暑さに負けず頑張りました！

マネジメントを学んで、両親の農場を手伝いたい！

現在、西日本研修センターで農業を学ぶエンジェルさん。残暑の厳しい9月上旬に行ったインタビューでは、「日本の夏はマレーシアより暑い」と話しつつも「でも私は元気！」と朗らかな笑顔を見せてくれました。日本での生活を楽しみながら、明るく前向きに研修に取り組む彼女の原動力は、家族への思いや新しい経験への好奇心にあるようです。来日前の様子やこれからの目標について聞きました。

私の家は農場を持っていて、子どもの頃からよく農作業を手伝っていたので、私にとって農業は親しみのあるものでした。私が高校を卒業し、一般企業で働いていた頃、自宅から車で約1時間半の場所に、農業を学ぶことができる研修施設があることを母がインターネットで知り、私に勧めてくれました。「ここで勉強するのはきつとおもしろいよ」「日本でいろいろな経験を積むチャンスも

あるらしいよ」という母。その言葉に惹かれて入所したのが、サバ州にある、KPD／オイスカ青年研修センター（以下、サバセンター）でした。そこで新しくできた仲間たちと、レタスやカボチャ、キュウリ、オクラ、トマトなど、さまざまな野菜を栽培し、農業の知識を深めた時間は、とても楽しいものでした。研修修了後、しばらくは野菜を取り扱う農業の会社で働いたり、家の農場を手伝ったりしていましたが、サバセンターのOGとして、かねて希望していた日本で学ぶチャンスに恵まれました。初めは1年間の研修ということとで家族と離れるのは不安でしたが、私はまだ若いですし、もっと農業の知識を身につけたいと思い、日本に行くことを決めました。

日本での生活はいかがですか

日本に着いてまず印象に残ったのは、四季です。私が来日したのは1月で、雪が降っていました。マレーシアでは年中暑く、季節も雨季と乾季の2つしかないもので、初めて雪を見てとてもきれいだと思いました。また、西日本研修センターの周りは自然も豊かで、四季ごとの風景も楽しんでいきます。ほかにも、いろいろな国から来た研修生との交流も刺激になっています。



お気に入りのマレーシアの民族衣装！



サバセンターでは水耕栽培も学びました

初めはお互いに日本語が十分ではないため、コミュニケーションをとるのが難しかったですが、今ではたくさん話します。少しうるさいくらい（笑）。それぞれの国の食べ物や、スポーツ、音楽などについても話し、こうした友人たちとの会話が毎日の研修の励みになっています。それから鹿児島や佐賀、大阪など、さまざまな場所に行ったり、地域のお祭りに参加してスイカや唐揚げを食べたり、地元の子どもたちと交流して一緒に農作業をしたりと、マレーシアに帰りたくないと思うくらい楽しい思い出がたくさんできました。

今後の目標を教えてください

私は日本での研修で、特に農業のマネジメントについて学びたいと考えています。私の家では、現在パームヤシ農場を中心にさまざまな野菜を栽培していて、帰国後は農作業だけでなく、経営の面でも両親の手伝

とある日の。

エンジェルさんの1日

月～土曜は農業研修で、日曜はお休みです。休日は洗濯したり、買い物に行ったり、ときどきセンターの番犬の散歩もします。ここでは夏の研修の一日を紹介。暑くて大変でしたが、頑張りました。

06:00 夏野菜の収穫

起床後すぐ作業着に着替えて農場へ！ トマト、キュウリ、オクラ、ナス、ゴーヤなどを収穫します。

07:00 朝食

センターで採れた野菜を使ったおいしい食事をいただきます。

08:30 販売準備

収穫したての野菜をパッキング。たくさんあって大変ですが、山のような野菜を見て、うれしくなります。

10:00 野菜の管理

草取りやネギ、ジャガイモの定植をしました。その後は夏のお楽しみ!! 炎天下での作業がひと段落したら、ときどき川へ水浴びに行きます!

冷たい水がとても気持ちいい!!



11:45 昼食・休憩

夏は朝が早い分、昼食後はゆっくり体を休めます。

13:30 掃除

14:00 ブドウの管理

袋掛けや誘引の作業をします。

天気は快晴! がんばろう!



18:00 国旗降下・ミーティング

ミーティングでは明日の作業を確認します。

18:30 夕食

夕食後は、消灯の時間まで音楽鑑賞や日本語の勉強をします。



たくさんの友人と賑やかに研修に取り組んでいます!

いをしたいと思っています。実は私は、3人の姉と弟、妹がいる6人きょうだいの4番目なのですが、今も

きょうだい全員が農業に携わっているんですよ。家族皆で家の農場運営を頑張りたいです。
また、日本語の習得にも力を入れ、サバセンターで教えられるようになりたいとも考えています。ほかに、イチゴの栽培など、日本で学びたいことや体験したいことがたくさんあります。引き続き、研修生の仲間と一緒に頑張ります!

エンジェル・グローリー・パヤル
マレーシア サバ州タンブナン出身。2001年生まれ。21年にKPD/オイスカ青年研修センターの研修生となる。修了後、企業への就職を経て、25年にオイスカ訪日研修生として来日、現在に至る。趣味は音楽とダンス。日本の唐揚げがお気に入り。

センター所長よりひとこと



西日本研修センター
所長

廣瀬 兼明

マレーシアのサバ州から来たエンジェルさん、いつも笑顔を絶やさずに明るく元気に頑張っています。しっかりとした目的を持って研修に取り組み、研修生の中でも際立つ存在となっています。

彼女はスポーツが得意で、10代のころ、サッカーのマレーシア代表で国際試合に出場したほど。先日もフットサルの練習に行っていました。さらにダンスも上手

で、交流会やイベントでかわいく楽しいダンスを披露してくれます。また、彼女の私への呼び方がいつも面白く、「せんせい、あつ、しょちょう!」と必ず間違えます。

そんな彼女ですが、研修に真剣に取り組む姿は、ほかの研修生も見習うほどです。センターの朝食時に食べる梅干しにも慣れて、すっかり日本に馴染んでいます。サバ州は農業が盛んな地域で、帰国後、家族で営む農場を発展させ、地域の青年たちの良きリーダーになってくれることを願っています。年末博多駅前で行われるクリスマスマーケットでも、研修生の皆と楽しいダンスを披露してくれるはず。今から楽しみにしています。

歴史さんぽ

Vol.16

自然と人と歴史をつなぐ30年のあゆみ

メキシコ

写真から伝わる
さまざまな思いに
フォーカス！



2025年

カツィール氏とオイスカ・インターナショナルの木附文化事務局長の協力のもと設立したオイスカ・メキシコ総局は、今年で20年を迎えます！

オイスカ・メキシコ総局
マルティン会長



1995年



プエブラ州の山々の森林再生のため、
地元住民と在来植物を植栽

メキシコ初のオイスカ活動は1995年、国連世界食糧計画（WFP）の職員として現地に赴任していた三澤康志さんが始めた「子供の森」計画（以下、CFP）でした。三澤さんは、オイスカの国際協力ボランティアで体験したフィリピンのCFP活動の経験をもとに、学校での植林や教育支援を進めました。

2004年、乾燥地農業の専門家であるオイスカ・イスラエル総局のラナン・カツィール事務局長と、メキシコで農業開発に取り組むホセ・マルティン氏との出会いがきっかけとなり、翌05年、マルティン氏を会長とするオイスカ・メキシコ総局を設立。緑化や環境教育に加え、困窮家庭に向けた簡易水耕栽培の推進や、世界複合遺産のテワカ

ン・クイカトラン溪谷の自然を守り、歴史を伝えるエコツーリズムの実施など、活動はさらに広がりを見せるようになりました。16年からは、研修生を日本に派遣。現在までに12名が、農業や家政、地域開発について学びを深め、母国でCFPのコーディネーターを務めるなど、各地で活躍しています。

今年、メキシコでのオイスカ活動は開始から30年の節目を迎えました。総局設立に尽力したマルティン会長は、長年の取り組みを次のよう話します。「たくさんの方々の支えと神さまのご加護によって、ここまで活動を継続することができました。地球とそこに住む人々の暮らしを守るため、今後も謙虚に、忍耐強く取り組んでいきます！」

日本にある
食材でつくり、
研修センターで
振る舞いました！

10月に四国研修
センターから異動しました。
よろしくお願いします！
ガディ



マレーシア・サバ州のふるさとの味 ミースープ //

中部日本研修センターのスタッフであるガディさんのふるさと、マレーシア・サバ州で親しまれている「ミースープ」を紹介します。これは、鶏をベースにしたスープに麺を入れ、さまざまな具材を盛りつけた家庭料理です。ミーはマレー語で「麺」を意味します。見た目は日本のラーメンに少し似ていますが、普段の食卓やお祝いの場など、幅広い場面で振る舞われています。特にサバ州では、結婚式などのお祝いの後、片付けや手伝いに集まった親族へのもてなしとして供されることが多いそうです。さらにガディさんによると、二日酔いにも効果があるのだとか！まさに集まりにぴったりな一品ですね！

作り方はとてもシンプル。家庭によって具材はさまざまですが、定番は鶏肉やネギ、セロリ、ゆで卵、フライドオニオン、唐辛子など。特別な材料を買わなくても、手軽につくれるのも魅力の一つです。

あっさりとしたやさしい味わいのミースープ。日本でも身近な食材でつくるので、ぜひご自宅でサバ州のふるさとの味を楽しんでみてください！（インターン／八木玲美里）



研修生にも大好評！
おいしくいただきました

モチモチのシューが
くせになるおいしさ！



FOOD

お！ススめ
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの
「オススめ」を紹介します！

ちびたまシュー

綾南自然菓子Showado／香川県綾歌郡綾川町畑田2719-2



綾南自然菓子Showadoは、1970年に和菓子の製造・販売を開始。96年に2代目が後を継ぎ、現在は洋菓子を扱っています。その数あるヒット商品のうち、私のおすすめは「ちびたまシュー」。食べやすい一口サイズで、生地とクリームのバランスにこだわった逸品です。県内各地からお客さんが詰めかける人気の品ですが、幸い四国研修センターは店舗に近く、今回は売り切れ前に無事購入できました。（四国研修センター M）

読者プレゼント！

バン格拉デシュのおみやげ

ノクシカタ(刺繍)の額と
ブリキのリキシャ

本誌TOPICでバングラデシュの取り組みを紹介しました。そのバングラデシュらしいおみやげが現地から届いていますので、ご紹介するとともに7名の方にプレゼントします。

木製フレームで額装された動植物をモチーフにしたノクシカタ①②(約24・5×29・5cm)、人々の生活を描いたノクシカタ③④(約23×18cm)とブリキ製のリキシャ⑤⑦の置物をそれぞれ1名の方にプレゼントします。

■はがきかメールに住所、氏名、電話番号、希望のプレゼント番号、今号の感想、「11月号読者プレゼント」を明記の上、左の宛先までお送りください。11月末日締切りです。

〒68-0063

東京都杉並区和泉2-17-5

公益財団法人オイスカ

「OISCA」編集部

E-mail oisca@oisca.org

ノクシカタ

バングラデシュやインドのベンガル地方に伝わるノクシカタは、サリーなどの古くなった布を重ねて、動植物や日常の風景のほか幾何学的なモチーフを刺繍した、日本の刺し子に似た伝統的な手工芸品です。現地NGOが立ち上げたソーシャルエンタープライズで扱うノクシカタ製品はバングラデシュのおみやげとして定番になっています。

リキシャ

リキシャは自転車改造した乗り物で、人や物を運ぶ庶民の足。オートバイで走るものはオートリキシャ、中でも圧縮天然ガスで走るものはCNGと呼ばれるものです。最近は自転車も人力ではなく、モーターをつけているものがほとんどで、運転手がペダルをこぐ様子はあまり見かけなくなりました。



研修センター日記

整理整頓すると
気持ちいい！

Vol.3 中部日本研修センター

「15分環境整備」で施設も人も気持ちよく！

中部日本研修センターでは、昼の15分環境整備という時間があります。これは普段の掃除だけでは手が回らないところの掃除を通して、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を身につけるための取り組みです。職場環境の整理、使った道具を元の場所に返すなど、集団生活の中で、お互いが気持ち良く過ごすことにもつながっています。また、普段行動を別にする農業研修生、家政研修生、技能実習生、スタッフが一緒になって作業しており、センターの環境だけでなく、人と人との間の風通しも良くしてくれています。

特に農業研修生は、開始時間よりも早く持ち場に到着して、その日の作業の準備を率先して行ってくれ、ほかの研修生、実習生の良いお手本となっています。(松岡)



床もしっかり磨きます！（ア ril / インドネシア）



靴箱の整理整頓。点呼で使用する帽子や手袋も、丁寧にカゴにしまします（シャム／インド）

ご支援ありがとうございます！

新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。
(2025年7月1日～8月31日までの間、本部登録済み。順不同、敬称略)

■特別法人
【静岡県】学校法人中野学園【大阪府】東洋紡労働組合

■維持法人
【愛知県】L B 株式会社／株式会社エネアーク中部【香川県】株式会社リソーシズ

■特別個人
【東京都】清水勝【愛知県】伊藤陽介

■維持個人
【北海道】村上則子【静岡県】森健司／佐野依子【愛知県】山崎宗二／岩瀬和義／三田晃嗣／磯谷弘治／坂口文孝【京都府】吉田温【大阪府】寺田祥二【香川県】吉井健人／橋口博徳／天雲千恵美／長尾桂子／香川雅之／綾野準一／廣瀬雄二／佐野弘美／廣瀬隆行【山口県】藤川克己【福岡県】渡辺文／NPO 法人福岡シュタイナー学園ホレおばさんの家【熊本県】宮原美智子

寄附

2025年7月1日～8月31日までにいただいた寄附は次の通り。
(順不同、敬称略)

●サミット株式会社／富士山の森づくりと「海岸林再生プロジェクト」に合せて398万2095円

●東京海上ホールディングス株式会社／海外開発協力事業に212万8048円

●東京センチュリー株式会社／海外開発協力事業と「子供の森」計画と富士山の森づくりと「海岸林再生プロジェクト」に合せて120万円

●テルモ株式会社／「子供の森」計画に90万円

●九州電力株式会社／人材育成事業に70万円

●株式会社プロネクス／「海岸林再生プロジェクト」に50万円

●ロクシタンジャポン株式会社／富士山の森づくりに50万円

●住友重機械工業株式会社／富士山の森づくりに50万円

●リタ・マークス株式会社／海外開発協力事業に37万5000円

●味の素グループ労働組合／「子供の森」計画に30万円

●全国化学労働組合総連合／「子供の森」計画と「海岸林再生プロジェクト」に合せて70万円

●仙台トヨベット株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に26万5665円

●株式会社U Nature／人材育成事業に13万7000円

●中武喜久代(宮崎県)／人材育成事業に10万円

●真屋正明(香川県)／人材育成事業に10万円

●丸眞株式会社／「子供の森」計画に11万4335円

●安部雅之(香川県)／ミャンマー地震緊急支援募金に10万円

●副田雅子(福岡県)／ミャンマー地震緊急支援募金に10万円

2025 オイスカ夏募金

2025年7月1日～8月31日までに「2025 オイスカ夏募金」にいただいた寄附(10万円以上)は次の通り。(順不同、敬称略)

●株式会社大江鐵工／55万円

●根本守(福島県)／20万円

●株式会社フレックスインターナショナル／20万円

●八十川紀夫(香川県)／10万5820円

●森藤左エ門(愛知県)／10万円

●坂元義孝(宮崎県)／10万円

●石見すみえ(埼玉県)／10万円

●瓜生道明(福岡県)／10万円

●松井徳之進(静岡県)／10万円

●水野宏幸(愛知県)／10万円

●工藤泰子(愛知県)／10万円

編集後記

バングラデシュでの取材中に気になって仕方がなかったのは、「パン」。食べるパンではありません。現地の人たちの嗜好品である噛みタバコです。おやつのかき餅と一緒に供されるほど日常にあるパン。この葉っぱに刻みタバコやビンロウの実など、好みのものを包んで噛むのです。あまりにも気になり、トライしてみましたが……二度と口に入れることはないでしょう。(林)



次号予告

OISCA
JANUARY | 1
2026

《特集》

ボランティアで踏み出す
国際協力への第一歩(仮)

OISCA 11月号
発行人／中野悦子
発行所／公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
編集：OISCA／吉田俊通 倉本有沙
アートディレクション／土肥幹人
デザイン／土肥幹人 坂巻貴行
印刷・製本／株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。



今月の表紙写真

Photo by Hayashi Kumiko



沖から戻った漁船が海岸に捨てた雑魚をビニールいっばいに詰めて家路につく少年たち。「お金ちょうだい」と近づいてきた一人をスタッフがたしなめる。煙突が見える村の夕暮れの一コマ。(マタバリ・バングラデシュ)

理念 — 人と育む、地球といきる —

Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

Spirit

Visionを達成するために、
私たち一人ひとりが
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口）	法人／10万円	個人／5万円
● 維持会員（年額1口）	法人／4万円	個人／2万円
● マンスリーサポーター	個人／月々2,000円～	

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。
※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。
※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

●「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。
※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは

公益財団法人
オイスカ〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
<https://oisca.org/>

国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川1120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-281-9077
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529
富山県支部 〒939-2226 富山市下大林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128
静岡県支部 〒431-1115 浜松市中央区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103
岐阜県支部 〒503-8603 大垣市久徳町100番地 太平洋工業㈱本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419
関西支部 〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎070-5550-7394
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーA&B/バートナース内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

OISCA NETWORK

福 島 〒963-0534 郡山市日和田町字大塚50-8 ㈱根本産業内 ☎024-958-2643 ☎024-958-3741
茨 城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539
神奈川 〒231-0021 横浜市中区日本大通り33 神奈川県住宅供給公社ビル1F ☎03-3322-5161
三 重 〒510-0958 四日市市小古曽1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745
奈 良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277
徳 島 〒770-8555 徳島市寺島町東2-29 四国電力㈱徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511
徳 媛 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682
高 知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572
佐 賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368
長 崎 〒858-0908 佐世保市光町109 ㈱堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069
熊 本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162
大 分 〒870-0001 大分市生石港町2-12-14 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040
宮 崎 〒880-0879 宮崎市宮崎駅東2-4-9 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833
沖 縄 〒902-0077 那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881